

広島市植物公園 見どころ案内

2020年7月25日
通巻第469号

展示会のご案内

- ◇展示温室 (7/18~8/16)
世界の食虫植物展
- ◇展示資料館 (6/10~8/6)
むし・花・Zoo-Zoo 写真展

ヤチシャジン (キキョウ科)

明るい湿地に稀に生える多年草で淡紫色の花を穂状に咲かせます。国内で絶滅危惧IA類に指定されており、植物園では自生地に不測の事態があったとき、その地域のヤチシャジンが絶滅することがないように、「生息域外保全」を目的としたヤチシャジンの栽培を園内で行っています。

プルメリア (キョウチクトウ科)

中南米原産の植物で花にはジャスミンのような芳香があります。ハワイなどの太平洋の島々では装飾品のレイに使われます。

ベニノキ(実)

(ベニノキ科)

熱帯アメリカ原産の1属1種の常緑小高木でウメに似た花を咲かせます。実からは赤橙色の色素がとれ、肉製品やかまぼこの着色料として利用されています。

オオミノトケイソウ

(トケイソウ科)

南米原産の植物で、トケイソウの名前は花の形が時計に見えることから名付けられました。なかまにはパッションフルーツの名前で知られているクダモノトケイソウがあります。

タイタンビカス (アオイ科)

アメリカフヨウとモミジアオイの交配種で生育旺盛で強健です。一日花で白やピンクの花を次々に咲かせます。

カジカエデ (ムクロジ科)

カナダ国旗のメープルカエデのような大きな葉が特徴。名前の由来はカジノキ(里山の野草園)に葉が似ていることから。別名はオニモミジ。果実も他のカエデよりも大型です。

フジバカマ (キク科)

秋の七草の一つで、香りがよいためかつては香り袋や入浴剤として使われていました。蝶が花を好んで集まり、秋には旅する蝶「アサギマダラ」を見ることができます。

オミナエシ

(オミナエシ科)

秋の七草の一つですが、実際の開花期は盛夏です。日当たりのいい草地に黄色の花を咲かせます。漢字は女郎花と書き、女郎の化粧のように匂いが強いからと言われています。

ヒマワリ‘サンフィニティ’

(キク科)

通常のヒマワリと違い、一株から何個もの小さなヒマワリを咲かせ続けます。また、一輪の花もちもよいため長く観賞することができます。

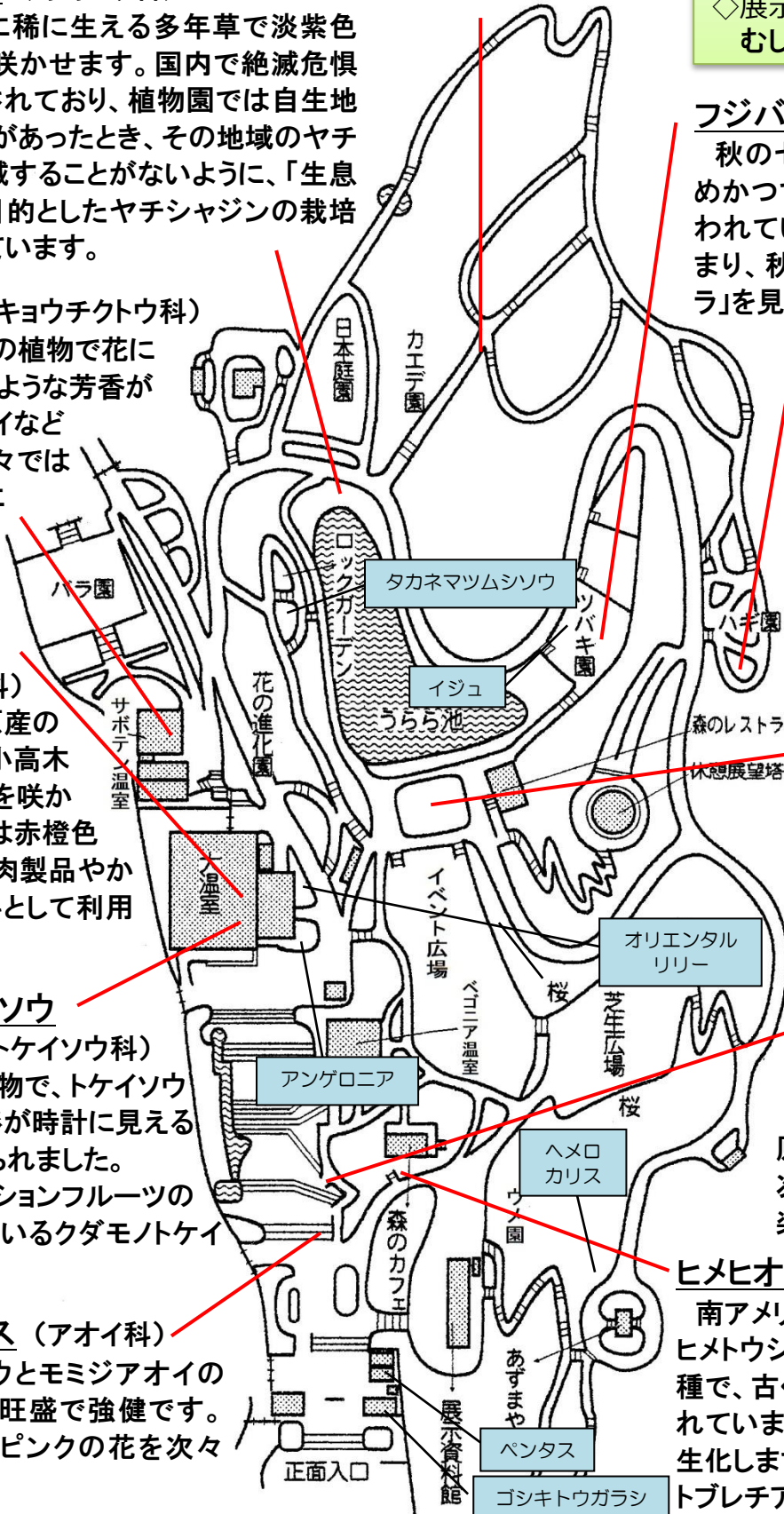
マンデビラ

(キョウチクトウ科)

中央アメリカ~アルゼンチン原産のつる性の植物で、花を次々に咲かせるため、長期間楽しむことができます。

ヒメヒオウギスイセン (アヤメ科)

南アメリカ原産のヒオウギズイセンとヒメトウショウブを交配して作られた雑種で、古く明治時代には国内に導入されています。繁殖力が強いのでよく野生化します。属名のクロコスミアやモンブレチアの名前でも流通しています。



- ✿ 毎週土・日曜日・祝日 午後1時半~3時20分は、ガイドボランティアが園内を案内します✿
- ✿ 毎月第2火曜日・第4土曜日 午前11時~は、職員による植物うんちくガイドを実施します✿